

# そうじの力だより

VOL.226



## 誌上レクチャー

「捨てる」ことの意味を考える  
〜捨てるは本当に大切なモノ・「下」に集中させる〜

私が企業に環境整備(整理・整頓・清掃)のお手伝いに入る際に、イの一番にすることは、不要なものを捨ててもらうことです。

私があまりにも「捨てる、捨てる」と言うものだから、支援先の社長さんや社員さんたちの中には、私のことを毛嫌いする人たちもいます。

日本人は特に、「もったいない」の精神が染みついているので、「捨てる」ことに対する抵抗感が強く、環境整備の活動を「乱暴だ」と誤解してしまうケースもあり

なぜ不要なものを捨てるべきなのかは、捨てることによって得られるメリットを考えれば分かります。まず単純に、捨てることによって、スペースが拡がります。スペースは、



捨てることで広いスペースが生まれた



何年も出ていない在庫が積まれているが...

時間を生み出します。狭い場所では効率が悪く、時間がかかりますが、広い場所では効率がよく、時間を短縮することができます。

これにより、単位時間あたりの生産量が増え、残業時間が減ります。事故やケガ、ミスも削減できます。

次に、捨てることで、現状がよく見えます。こちゃこちゃと雑多なものが積み重なっている状態では、何がどうなっているのか分かりません。

しかし、捨てていくと、たとえば、使っていない事務用品が大量にストックされていることを発見し、いかに経費を無駄遣いしているかを思い知らされることとなります。



店が開けるほどの事務用品のストック

こうしていくと、実は、誰が何をしているのかが、よく見えるようになります。

ある会社では、営業車の車内に載っているものを捨てていく過程で、営業マンがいかにクロージングをしていないかが分かり、それを改善することで営業

成績の向上につながりました。また別の会社では、各人のデスクの中身を整理する過程で、社員の不正が見つかったこともありました。

つまり、捨てることによって、普段は表に出てこない会社の問題点が顕在化するのです。

そして、なんとと言っても、捨てることの最大のメリットは、「本当に大切なもの」が分かり、「大切なものに集中する」ことができる、ということです。



限られたモノを大切に使える状態



モノを粗末に扱ってしまう状態

たとえば、抽斗の中に大量の事務用品が詰まっていると、どれも大切なものとは思えず、粗末に扱ってしまいがちです。ペンなどは、どうせ何本もあるのだから、なくしても平気です。結

果として、よく物がなくなり

ところが、捨てていくと、「これだけはなくしたら困る」というものがよく見えてきます。結果として、それらは大切に使うようになります。

実はこのことは、モノだけでなく、コトにも同じことが言えます。

私たちは普段、さほど大切でないことに時間を取られ、そのせいで、忙しいわりに、付加価値の高い仕事ができない状態に陥りがちです。

ある社長さんは、たくさん異業種交流会や勉強会に入っていたのですが、環境整備を進める中で、一つのを除き、すべて辞めました。それによって時間に余裕ができ、社業の将来をじっくりと考える時間ができ、現在、業態転換に取り組んでいます。

効率を上げるために、デジタル化を進めることができますが、実はその前にしなければならぬのが、他ならぬ「捨てる」ことなのです。でないと、どうでもよいことまでデジタル化してしまうことになりかねません。

限られた時間と資源の中で、私たちは「あれもこれもほできません。扱うモノとコトを、自分(会社)にとって本当に大切なことに絞り、そこに持てる力の最大限を投入することで、よりよい成果を得られるはず」です。

「捨てるのはもったいない」と躊躇することが、実は、もったいないことなのです。(小早)

企業・団体の研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはホームページをご覧ください。



# コラム

人間は、自ら体験したことから学ぶ  
〜能登半島被災地支援ボランティア雑感〜

四月三〜四日、石川県珠洲市の被災地に、支援ボランティアに行つてまいりました。その時に感じたことを、つらつらと書いていきます。

## 【アクセスの悪さ】

ボランティアバスは、金沢駅で集合および解散でした。金沢から現場である珠洲市には三時間以上もかかります。これでは支援が行き届かないのも無理はありません。しかも、能登半島に向かう道路は一本道で、途中の陥没も応急処置のままです。スピードも出せません。

一泊二日のボランティアとはいえず、移動にそれぞれ半日ずつかかるわけで、実質は一日分しか働けないのです。

## 【建物による被害の度合いの違い】

珠洲市を見ると、完全にべちゃんこに潰れてしまった家の隣で、元気に立っている家があることに気づきます。

この違いは、構造によるものなのでしょう。やはり、昭和の初期に、安普請で建てられた家は構造が弱いのでしょうか。同様のことは、鉄筋コンクリート造の建物でも見られました。

## 【整理・整頓の大切さ】

初日にお手伝いに入ったお宅では、倒れた食器棚を解体して撤去するなどの作業を行いました。

この作業を行うにあたって、当初、我々の足場が確保できずに難儀しました。これは震災とは関係なく、失礼ながら、周りにモノが多すぎて、空間が埋まっています。



やはり、いざという時のためにも、普段から不要なものは捨て、常に空間をクリアに保つことが大切です。それは、安全を担保することにもつながります。

## 【厳しい避難生活】

我々は、六水町の廃校を利用したベースキャンピングに宿泊しました。

いまだに水道が復旧しておらず、洗面や手洗い、歯磨きなどは、持参したペットボトル水で行います。トイレは、屋外に設置された仮設トイレで。

体育館にたくさんさんのテントが設置されていて、そこに寝袋を敷いて寝ます。テントは十分に広く、プライバシーは確保されていますが、とにかく寒いのです。四月上旬で、もうだいぶ暖かいだろうと甘く見ていましたが、寒くてよく眠れませんでした。

## 【体験することの大切さ】

私がこうしてわずか一晩で悲鳴を上げたような状況に、避難者の方々は三か月以上もいらつしやるわけで、本当に心が痛みます。

つくづく思うのは、こうしたことは、実際に自分で体験しないとわからない、ということ。マスコミ報道では、本当のところはわかりません。やはりどんなことも、自分の目で見るのが大切です。(小早)

## 編集後記

### 巢立ち

娘がこの春に大学に入学しました。先日入学式が行われ、我われ夫婦も隣席してきました。

志望校だけあって、建学の理念、カリキュラム、教授陣、施設ともに、大変素晴らしいと実感できました。

娘にとって最高の環境が用意されているようです。

親元を離れてのひとり暮らしなので、親としては多少の心配や寂しさもありますが、我が子が巣立っていく姿を見られるのは、親として他に代えがたい幸せです。(小早)



## 飛鳥のつばやき

### いちねんせい

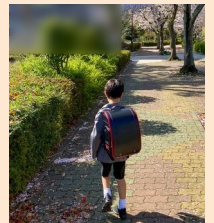
長男、とうとう一年生になりました！

「初日から登校拒否」やら、「不安定になって半年間付き添い登校」やら、ネガティブな情報が山ほど入ってきており、相当覚悟して迎えた初登校日。

すごくあっさり登校して拍子抜け。

なんか…すごい「お兄ちゃん」になったんだなあ…としみじみ。

気の合うお友達と出遭い、楽しく元気に学校生活が過ごせますように！(^-^)



## 株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、  
日本で唯一の研修会社

弊社は「そうじ＝環境整備」を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場巡回を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)

X(旧ツイッター)で、『環境整備 一日一言』を毎日更新しています。ぜひフォローしてみてください！